

# LST NEWS

No.5

APRIL 2006

第5号(平成18年4月)



## 新入生を迎えて

研究科長 小柴正則

情報科学研究科へ入学された皆さん、ご入学、誠におめでとうございます。本研究科の教職員を代表いたしまして、修士課

程186名、博士後期課程42名、合計228名の皆様のご入学を心から歓迎いたします。

皆さん方が大学に入学された頃、北海道大学には、まだ情報科学研究科はありませんでした。この研究科ができましたのは、2年ほど前の平成16年4月、ちょうど国立大学が法人化されたときでした。おかげさまで、この3月には155名の方々が一期生として修士課程を修了されました。また、在学期間を2年に短縮して博士後期課程を修了された方も4名いらっしゃいました。

既にご存知のことと思いますが、本研究科は、工学研究科にありました旧システム情報工学専攻と旧電子情報工学専攻とを母体として組織された研究科でありまして、21世紀COEの枠組みで言いますと、情報・電気・電子系の研究科であります。まさしく国が定めている「重点推進4分野」、すなわち、「ライフサイエンス、情報通信、環境、ナノテクノロジー・材料」の4分野に深く関わる研究科であります。したがって、北大の情報科学研究科に入学された皆さん方に対する社会の期待は、皆さん方の想像以上に大きく、このことは間もなく目に見える形でわかってくるはずです。

これまでの学校生活は、入口も出口も学校であったわけですが、今度の出口は、学校ではなく、社会です。博士後期課程進学を考えている方にとっては、出口はまだ学校と思われるかもしれませんが、国は、博士後期課程修了者を、「社会の多様な場で、高度な知識基盤社会をリードし、支え、活躍すべき存在」と位置付

けています。博士後期課程に進学された皆さんには、研究者としての基礎訓練は、修士課程において既に済んでいるはずですから、身分は学生ですが、「社会の一員としての研究者である」くらいの気概と自覚を持って、独立して研究を推進できる実力を備えていただきたいと思います。いずれにしましても、皆さん方は、研究を通して社会との接点を肌で感じることが出来る学生生活の出発点に立ったわけです。研究というのは、大学までの学習と違って、すぐに成果が得られるというものではありません。

私は、いつも、「努力と忍耐なくして研究者たり得ない」と思っておりますが、私などが言うまでもなく、昔から、偉大な先人が名言を残しておられます。この機会ですから、いくつか紹介させていただきますと、まずは、アメリカの発明家エジソンは、「天才とは、99%の汗と1%の靈感である」と言っています。「汗」とは「努力」のこと、「灵感」とは「ひらめき」のことです。また、イギリスの喜劇俳優チャップリンも、「99%までは努力、1%が才能」と同じようなことを言っています。そして、チャップリンと同じイギリスの政治家ディズレーリは、「努力に勝る教師なし」と言っており、ロシアの文学者トルストイは、「天才とは強烈な忍耐者である」と言っています。さらに、我が国の世界的な細菌学者である野口英世先生は、「努力だ、勉強だ、それが天才だ」と言っています。どうやら、生まれながらにして天才などという人はおらず、多少なりとも研究の成果を期待するならば、一日一日の努力の積み重ねと忍耐に尽きるのかなと思います。

どうか皆さん方には、先生方と一緒に研究の醍醐味を大いに味わってください。これからの学生生活が、皆さん方にとって実り多いものになることを願ってやみません。

(本記事は、4月4日に挙行された情報科学研究科入学式での研究科長挨拶に基づくものです)



## 情報科学研究科長に 着任して

研究科長 小柴正則

情報科学研究科が設置されてから、はや2年、まさしく「光陰矢のごとし」の思いを強くしています。北海道大学を除くすべての旧帝国大学と東京工業大学には、国立大学が法人化される以前から情報系の研究科が設置されており、いわゆる7大学情報系研究科長会議なるものが組織されていました。北海道大学だけが取り残されているという危機感が強まる中、法人化を目前にした平成15年4月、情報系の新研究科設置に向けての学内の動きがいよいよあわただしくなり、工学研究科の旧システム情報工学専攻と旧電子情報工学専攻とを中心として、概算要求の取りまとめ作業が急ピッチで進められました。幸いにも、平成16年4月（なんと、構想からわずか1年後）、国立大学の法人化と同時に、情報科学研究科が設置されるに至りました。

あれから2年、この3月には、155名の学生が本研究科の栄えある1期生として修士課程を修了するとともに、在学期間を2年に短縮して博士後期課程を修了した学生も4名を数えました。また、4月には、修士課程186名、博士後期課程42名、合計228名の学生を本研究科に迎えることができました。情報科学研究科の教育課程の基本方針は、学生便覧にも記載してありますが、「アトム、ビット、ゲノム、ミーム」といった「ミクロ」情報から、「自然、人間、社会、地球環境」に関わる「マクロ」情報に至るまで、情報技術（IT）のソフトウェアとハードウェアをバランスよく教育研究することにあります。こうした基本方針は、国が平成18年度から22年度までの第3期科学技術基本計画の中で定めている「重点推進4分野」、すなわち、「ライフサイエンス、情報通信、環境、ナノテクノロジー・材料」の4分野、そして、「エネルギー、ものづくり技術、社会基盤、フロンティア」といった「推進4分野」との整合性が高く、その点では、今のところフォローの風が吹いているとも言えますが、逆に、それだけ本研究科の社会的責任も大きいことは論を待ちません。

第3期基本計画においては、第2期基本計画で掲げられた3つの理念、すなわち、「人類の英知を生む（知の創造と活用により世界に貢献できる国）」、「国力の源泉を創る（国際競争力があり持続的発展ができる国）」、「健康と安全を守る（安心・安全で質の高い生活のできる国）」という3つの理念を実現するため、科学技術が何を指すのかという、より具体化された政策目標が、「社会・国民に支持され、成果を還元する科学技術」、「人材育成と競争的環境の重視：モノから人へ、機関における個人の重視」という2つの基本姿勢の下に詳細化されています。とりわけ、大学における人材育成機能の強化、大学の国際競争力の強化等が強く打ち出されており、大学院教育については、質の抜本的強化に取り組むとされています。特に注視すべきは、「我が国の大学において、研究活動に関する各種評価指標により、世界トップクラスとして位置付けられる研究拠点、例えば、分野別の論文被引用

数20位以内の拠点が、結果として30拠点程度形成されることを目指す」とされていることです。

昨年3月に国立大学協会から発行された「21世紀日本と国立大学の役割」によりますと、「Web of Science」に収録された自然科学分野の学術論文数において、また、「ISI Essential Science Indicators」によって抽出された、ある程度質の高い論文の被引用数において、日本の大学は世界に伍して、かなり健闘していることがわかります。学術論文数については、東京大学がハーバード大学に次いで世界第2位、京都大学が第7位といった具合です。学術研究のアクティビティの目安とされる被引用数でランキングしますと、世界の上位1,000位までに、日本の大学は67校入っており、我が国の大学はそれなりの成果を国際レベルであげてきたわけですが、第3期基本計画の中で、論文の被引用数をもって30程度の世界トップクラスの拠点形成を目指すとは、我が国の科学技術の質的スタンダードを揺るがしかねない状況が見え始めていることによるものと思われます。特に最近、中国、韓国など、アジア諸国の躍進が著しく、世界の主要大学の学術論文数に占めるシェアは、この10年間の推移を見ましても、日本の大学がほぼ横ばいであるのに対して、ソウル大学、シンガポール大学、北京大学等、アジア諸国の大学が右肩上がり年々シェアを拡大しています。

こうしたアジア諸国の台頭は、経済的な発展がその背景にあり、いずれは成熟期を迎え、論文数のシェアも飽和するであろうと楽観できないところに問題の難しさがあるように感じます。すなわち、これらの国々では、優秀な人材育成が科学技術力の基盤として認識され、国際的な人材争奪競争も日常的になっています。我が国は、これまで高い教育水準の人材を数多く輩出し、学術研究のアクティビティも世界レベルにあったはずですが、昨今の学力低下の問題や少子化の問題とも相まって、第3期基本計画の中にあるとおり、特に大学院教育の質的スタンダードを底上げし、高いレベルでの品質保証を図ることが、もはや一刻の猶予も許されないところまで来てしまっているのではないかと思います。

第3期基本計画の初年度となる平成18年度から、情報科学研究科の研究科長を務めさせていただくことになりました。大学の原点、それは「教育」と「研究」で、特に研究重点大学である北海道大学の場合、何よりも「優れた研究」を行うことがすべての基本であると思います。次代を担う人材の育成にしても、社会人の再教育や生涯教育にしても、さらには、社会貢献や地域貢献にしても、「優れた研究」なしには、プロとしての責任ある対応はできないと思います。本研究科は、情報系研究科として、最後に8大学の仲間入りをしたわけですが、大学の原点に立ち返って、本研究科の特徴を活かしつつ、存在感を示していけたらと願っています。

広報・情報室の先生から、着任挨拶執筆の機会をいただきました。堅苦しくなくというご助言もあり、エッセイ風にかかせていただきました。教職員の皆様には、今後とも、ご協力、ご支援のほど、よろしくお願いたします。

平成18年度情報科学研究科専攻長・各種委員会委員等一覧

●専攻長・副専攻長

専攻等	専攻長（任期：1年）	副専攻長（任期：1年）
複合情報学専攻	和田 充 雄	古川 正 志
コンピュータサイエンス専攻	原 口 誠	宮 腰 政 明
情報エレクトロニクス専攻	雨 宮 好 仁	山 本 眞 史
生命人間情報科学専攻	河 原 剛 一	清 水 孝 一
メディアネットワーク専攻	野 島 俊 雄	荒 木 健 治
システム情報科学専攻	五十嵐 一	小野里 雅 彦

●運営会議等

専攻等	運営会議	専攻長会議（役職指定）	コース長会議（役職指定）
研 究 科 長 （副工学部長）	小 柴 正 則	小 柴 正 則	小 柴 正 則
副 研 究 科 長	酒 井 洋 輔 山 本 克 之	酒 井 洋 輔 山 本 克 之	酒 井 洋 輔 山 本 克 之
複合情報学専攻		和 田 充 雄 古 川 正 志	和 田 充 雄 古 川 正 志
コンピュータサイエンス専攻		原 口 誠 宮 腰 政 明	原 口 誠 宮 腰 政 明
情報エレクトロニクス専攻		雨 宮 好 仁 山 本 眞 史	雨 宮 好 仁 山 本 眞 史
生命人間情報科学専攻		河 原 剛 一 清 水 孝 一	河 原 剛 一 清 水 孝 一
メディアネットワーク専攻		野 島 俊 雄 荒 木 健 治	野 島 俊 雄 荒 木 健 治
システム情報科学専攻		五十嵐 一 小野里 雅 彦	五十嵐 一 小野里 雅 彦
1年クラス担任代表			野 島 俊 雄
2年クラス担任代表			渡 邊 日 出 海
(旧)情報工学科長			和 田 充 雄
(旧)電子工学科長			野 島 俊 雄
(旧)システム工学科長			清 水 孝 一
事 務 部 長	関 谷 康 一		

専攻等	将来構想委員会 (役職指定)	教育研究評価委員会 (任期：2年)	学務委員会 (任期：2年)	学術委員会 (任期：2年)
研究科長	○小柴正則			
副研究科長	酒井洋輔 山本克之	○山本克之 酒井洋輔	○山本克之	○酒井洋輔
複合情報学専攻	和田充雄 古川正志	大内東	古川正志	大内東
コンピュータサイエンス専攻	原口誠明 宮腰政明	有村博紀	工藤峰一	栗原正仁
情報エレクトロニクス専攻	雨宮好仁 山本眞史	三島瑛人	三島瑛人	三島瑛人
生命人間情報科学専攻	河原剛一 清水孝一	渡邊日出海	三田村好矩	渡邊日出海
メディアネットワーク専攻	野島俊雄 荒木健治	長谷山美紀	宮永喜一	小川恭孝
システム情報科学専攻	五十嵐一彦 小野里雅	金子俊一	山下裕	金子俊一
教育企画室		高橋庸夫	北裕幸	宮永喜一
研究企画室		野島俊雄		有村博紀
広報・情報室		長谷山美紀		長谷山美紀
就職企画室		小野里雅彦		
安全衛生管理室		末岡和久		
事務部長	関谷康一			
総務課長				小野信成
教務課長			小玉修士	小玉修士
事務室長	長田俊一		長田俊一	長田俊一

●室

○室長

所 属	評価分析室	研究企画室 (任期：2年)	教育企画室 (任期：2年)	広報・情報室 (任期：2年)	就職企画室 (任期：1年)	安全衛生管理室 (任期：2年)
研 究 科 長	○小柴 正則					
副 研 究 科 長	酒井 洋輔 山本 克之	○酒井 洋輔	○山本 克之	○酒井 洋輔		
複合情報学専攻		大内 東	大内 東		古川 正志	
コンピュータサイエンス専攻	原口 誠	有村 博紀	工藤 峰一		宮腰 政明	
情報エレクトロニクス専攻	雨宮 好仁		高橋 庸夫	菅原 広剛	山本 眞史	末岡 和久
生命人間情報科学専攻		渡邊日出海		峯田 克彦	清水 孝一	村林 俊
メディアネットワーク専攻		野島 俊雄	宮永 喜一	長谷山美紀 山本 学	荒木 健治	
システム情報科学専攻		金子 俊一	北 裕幸		○小野里雅彦	
事 務 部 長	関谷 康一					
教 務 課 長			小玉 修士			
事 務 室 長		長田 俊一		長田 俊一	長田 俊一	

●広報担当WG（任期：2年）

所 属	氏 名
複 合 情 報 学 専 攻	吉 井 伸 一 郎
コ ン プ ュ ー タ サ イ エ ン ス 専 攻	吉 岡 眞 治
情 報 エ レ ク ト ロ ニ ク ス 専 攻	岡 本 淳
生 命 人 間 情 報 科 学 専 攻	村 林 俊
メ デ ィ ア ネ ッ ト ワ ー ク 専 攻	山 本 学
シ ス テ ム 情 報 科 学 専 攻	小 野 里 雅 彦

●情報科学研究科 北大セミナー担当委員会名簿

所 属	氏 名	備 考
シ ス テ ム 情 報 科 学 専 攻 シ ス テ ム 情 報 コ ー ス	金 子 俊 一	担当世話人
複 合 情 報 学 専 攻 情 報 工 学 コ ー ス	吉 井 伸 一 郎	
コ ン プ ュ ー タ サ イ エ ン ス 専 攻 コ ン プ ュ ー タ サ イ エ ン ス コ ー ス	今 井 英 幸	
情 報 エ レ ク ト ロ ニ ク ス 専 攻 電 子 情 報 コ ー ス	古 賀 貴 亮	
生 命 人 間 情 報 科 学 専 攻 生 体 情 報 コ ー ス	峯 田 克 彦	
メ デ ィ ア ネ ッ ト ワ ー ク 専 攻 メ デ ィ ア ネ ッ ト ワ ー ク コ ー ス	坂 本 雄 児	
シ ス テ ム 情 報 科 学 専 攻 シ ス テ ム 情 報 コ ー ス	木 村 圭 司	

●工学部委員会委員情報エレクトロニクス学科

所 属	学部代議員会 (役職指定)	教務委員会 (任期：1年)	学生委員会 (任期：1年)	入試委員会 (任期：1年)	教育評価委員会 (任期：1年)
副 工 学 部 長	小 柴 正 則				
全学教務委員会	山 本 克 之	山 本 克 之	山 本 克 之	山 本 克 之	山 本 克 之
情報工学コース	和 田 充 雄	古 川 正 志	古 川 正 志	和 田 充 雄	大 内 東
コンピュータサイエ ンスコース	原 口 誠	工 藤 峰 一	宮 腰 政 明	原 口 誠	有 村 博 紀
電子情報コース	雨 宮 好 仁	高 橋 庸 夫	山 本 眞 史	雨 宮 好 仁	三 島 瑛 人
生体情報コース	河 原 剛 一	遠 藤 俊 徳	清 水 孝 一	河 原 剛 一	渡 邊 日出海
メディアネットワー クコース	野 島 俊 雄	宮 永 喜 一	荒 木 健 治	野 島 俊 雄	長谷山 美 紀
システム情報コース	五十嵐 一	北 裕 幸	小野里 雅 彦	五十嵐 一	金 子 俊 一

●工学部 学科長・副学科長

学 科	学科長 (任期：1年)	副学科長 (任期：1年)
情報エレクトロニクス学科	原 口 誠	山 本 眞 史

●工学部将来構想委員会委員

学 科 長 (任期：1年)	原 口 誠
------------------	-------

●工学研究科（旧）専攻長・副専攻長

旧 専 攻	専攻長 (任期：1年)	副専攻長 (任期：1年)
システム情報工学専攻	河 原 剛 一	清 水 孝 一
電子情報工学専攻	雨 宮 好 仁	山 本 眞 史

●工学部（旧）学科長・副学科長

旧 学 科	学科長 (任期：1年)	副学科長 (任期：1年)
情 報 工 学 科	和 田 充 雄	長谷山 美 紀
電 子 工 学 科	野 島 俊 雄	雨 宮 好 仁
シ ス テ ム 工 学 科	清 水 孝 一	高 橋 庸 夫

## 情報科学研究科ホームページ

([http://www.ist.hokudai.ac.jp/index\\_jp.php/](http://www.ist.hokudai.ac.jp/index_jp.php/))

- 平成18年度民間基盤技術研究促進制度(地域中小企業・ベンチャー重点支援型)の連携大学として北海道大学(担当部局:情報科学研究科)が選ばれました。  
研究科TOP>ニュース>ニュース一覧へ>2006.3.6
- 情報科学研究科講演会を開催(講師:文部科学省大臣官房会計課長、本研究科客員教授 合田隆史氏)  
研究科TOP>ニュース>ニュース一覧へ>2006.3.10
- 平成18年度民間基盤技術研究促進制度(地域中小企業・ベンチャー重点支援型)説明会(北海道大学主催)が開催されました。  
研究科TOP>ニュース>ニュース一覧へ>2006.04.05
- 平成19年度修士課程募集要項を掲載しました。  
研究科TOP>ニュース>ニュース一覧へ>2006.04.10
- 平成19年度博士後期課程募集要項を掲載しました。  
研究科TOP>ニュース>ニュース一覧へ>2006.04.10

## 広報ホームページ

(<http://www.eng.hokudai.ac.jp/news/publication/>)

研究科TOP>広報>工学研究科・情報科学研究科・工学部広報

### 【ニュース】

- 北工会学科対抗卓球大会開催
- 平成18年度概算要求に伴う予算内示
- 平成17年度 北工会冬季綱引き大会開催
- 平成17年度 各室・各委員会報告(工学部・その他)
- 平成17年度 各室・各委員会報告(工学研究科)
- 大学入試センター試験行われる
- 次期情報科学研究科長候補者決定
- 労働者の過半数代表候補者選出
- 次期ベンチャー・ビジネス・ラボラトリー長候補者決定
- 大学院情報科学研究科第2次入学試験実施
- 本学第2次入学試験(前期日程)実施
- 本学第2次入学試験(後期日程)実施
- 鈴木 章 名誉教授に特別招へい教授の称号授与

### 【受賞】

2006年1月19日	Calkin A.S. Montero
メディアネットワーク専攻 博士課程1年	
IEEE Sapporo Section The 2005 Student Paper Contest Best Paper Award 受賞	
2006年1月19日	Marcin Skowron
メディアネットワーク専攻 博士課程3年	
IEEE Sapporo Section The 2005 Student Paper Contest Best Paper Award 受賞	
2006年3月1日	小柴 正則
メディアネットワーク専攻 教授	
IEEE東京支部設立50周年記念セレモニー	
Outstanding IEEE Paper Publication Award (学術活動功績賞)	
- IEEEの論文誌に日本人として最も多くの正規論文(フルペーパー)を発表した功績	

### 【人事異動】

#### 【研究科長・副研究科長】

(任期)平成18年4月1日～平成20年3月31日	
小柴 正則	研究科長
酒井 洋輔	副研究科長(総務・研究担当)
山本 克之	副研究科長(教育担当)

#### 【教授】

(定年)平成18年3月31日	
北島 秀夫	メディアネットワーク専攻 情報メディア学講座
(辞職)平成18年3月31日	
大森 隆司	複合情報学専攻 複雑系工学講座 (玉川大学へ)

(採用)平成18年4月1日	
古川 正志	複合情報学専攻 複雑系工学講座
(昇任)平成18年4月1日	
長谷山美紀	メディアネットワーク専攻 情報メディア学講座

#### 【助教授】

(定年)平成18年3月31日	
吉田 則信	メディアネットワーク専攻 情報通信システム学講座
福田 昭治	システム情報科学専攻 システム融合情報学講座
(採用)平成18年4月1日	
原 亮一	システム情報科学専攻 システム融合情報学講座

#### 【助手】

(辞職)平成18年1月31日	
白石 真一	メディアネットワーク専攻 情報メディア学講座 (セイコーエプソン株式会社へ)
(定年)平成18年3月31日	
小柳幸次郎	情報エレクトロニクス専攻 先端エレクトロニクス講座
伊藤 雄三	システム情報科学専攻 システム融合情報学講座
(辞職)平成18年3月31日	
石川 悟	複合情報学専攻 複雑系工学講座 (北星学園大学へ)

#### 【事務職員等】

(定年)平成18年3月31日	
米原 優子	総務課 企画係 主任
(採用)平成18年4月1日	
窪寺 倫子	総務課 企画係 (情報科学研究科事務室会計担当係) 事務職員
(昇任)平成18年4月1日	
長田 俊一	総務課 課長補佐 (情報科学研究科事務室長)
内田めぐみ	総務課 企画係 (情報科学研究科事務室教務担当係) 主任
(配置換)平成18年4月1日	
折田 朋子	総務課 人事第二係長 (情報科学研究科事務室総務担当係長)
山本 進	総務課 企画係長 (情報科学研究科事務室会計担当係長)
大友 伸一	教務課 専門職員 (情報科学研究科事務室教務担当係長)
對馬 寿恵	総務課 人事第二係 (情報科学研究科事務室総務担当係) 主任
渡邊 玲子	総務課 企画係 (情報科学研究科事務室会計担当係) 主任
石窪 順子	総務課 企画係 (情報科学研究科事務室教務担当係) 主任
塚田 倫子	総務課 人事第二係 (情報科学研究科事務室総務担当係) 事務職員
塚越 翼	総務課 企画係 (情報科学研究科事務室会計担当係) 事務職員

#### 【技術職員等】

(定年)平成18年3月31日	
大平 靖夫	技術部 技術専門官

#### 【嘱託職員等】

(契約期間満了)平成18年3月31日	
中島 幸治	研究科長特別補佐
(採用)平成18年4月1日	
大平 靖夫	嘱託職員

## 新 教 員 紹 介

1. 最終学歴および学位、2. 前職、3. 専門分野

古川 正志 教授



複合情報学専攻複雑系工学講座

1. 昭和48年北海道大学大学院工学研究科修士課程修了 工学博士、2. 旭川工業高等専門学校制御情報工学科 教授、3. 自律系工学、情報工学、知的工学

長谷山 美紀 教授



メディアネットワーク専攻情報メディア学講座

1. 昭和63年北海道大学大学院工学研究科修士課程修了 博士（工学）、2. 北海道大学大学院情報科学研究科 助教授、3. 画像処理、音響処理、マルチメディア信号処理

原 亮一 助教授



システム情報科学専攻システム融合情報学講座

1. 平成15年北海道大学大学院工学研究科博士後期課程修了 博士（工学）、2. 横浜国立大学大学院工学研究院 助手、3. 電力系統工学、パワーエレクトロニクス応用

## 講義情報掲示システムの利用について

本講義情報掲示システム（電子掲示システム）は、休講、補講、試験・再試験、時間・教室変更、ガイダンス、その他講演など、講義に関する情報を電子掲示板（情報科学研究科1階玄関ホール、工学研究科本棟、材料化学棟の大型プラズマディスプレイ）およびウェブを通じて提供するため、平成17年10月から運用されています。講義情報等は、24時間運用の工学部汎用システムyggdrasil(ユグドラシル)を利用して教員が随時入力することができ、受講者等の皆さんはウェブあるいは携帯端末からアクセス可能です。情報の充実と利用率の向上のため、皆様の積極的な利用をお願いいたします。（副研究科長 酒井洋輔、山本克之）

登録画面（教員用）

[https://yggdrasil.eng.hokudai.ac.jp/lecture\\_info/](https://yggdrasil.eng.hokudai.ac.jp/lecture_info/)

操作方法（教員用）

[https://yggdrasil.eng.hokudai.ac.jp/lecture\\_info/manual.html](https://yggdrasil.eng.hokudai.ac.jp/lecture_info/manual.html)

電子掲示板プレビュー

<http://www.eng.hokudai.ac.jp/display/display.swf>

ウェブ版画面

<http://www.eng.hokudai.ac.jp/lecinfo/>

携帯端末画面

<http://www.eng.hokudai.ac.jp/mobile/>

## 資格試験免除校認定・履修科目の確認について

情報エレクトロニクス学科電子情報コースが電気通信主

任技術者試験の一部を免除する学校等に認定されました。（平成18年4月6日付。平成17年4月第1年次入学者から適用）

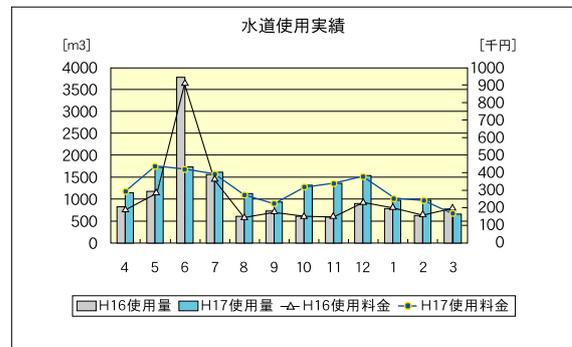
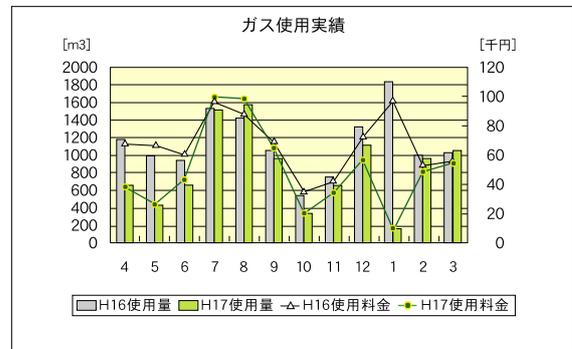
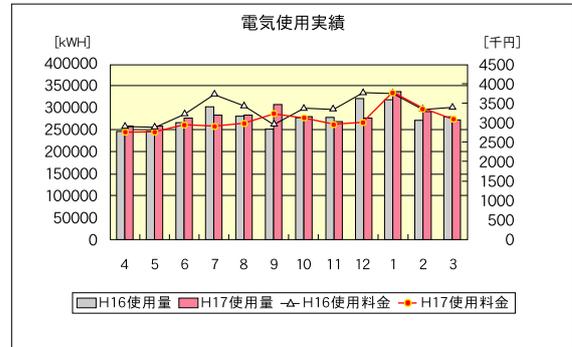
情報エレクトロニクス学科電子情報コースおよび同学科メディアネットワークコースの開設科目の一部が無線従事者（第一級陸上特殊無線技士、第三級海上特殊無線技士）の免許を取得するために履修する科目として確認されました。

（平成18年3月15日付。平成17年4月第1年次入学者から適用）

## 光 熱 水 費 推 移

平成18年3月までの光熱水費がまとまりました。共通経費（一般運営財源）の有効利用のため、授業後の教室、昼間の廊下、不在時の研究室など、こまめな消灯や不使用機器のスイッチオフにご協力をお願いいたします。

（副研究科長 酒井洋輔）



IST NEWS No.5

平成18年5月12日発行

発行：北海道大学大学院情報科学研究科 広報・情報室